図書館だより　２月号（令和６年度）

川之石高校図書委員会

３年次生は自宅学習に入り、間もなく卒業を迎えます。また、１・２年次生は上級学年への進級を控えた大切な時期となっています。まだまだ寒い日が続きますが、部活動・学習と併せて、読書にも取り組み、次年度に備えましょう。

〔新任の先生より〕

『「空気」を読んでも従わない』（鴻上　尚史　著）

英語科　ペレイラアリアス利奈　先生

みなさん「日本人」と聞いてどんな人が思い浮かびますか？同じ質問を高校生にしたところ「裏表がある人」「腹黒い」「日本語を喋る人」などいろんな答えがかえってきました。AI による「日本人」の定義は「日本国籍を持つ人」とされています。私の夫は日本国籍を持っているので日本人になりますが母国語はスペイン語。日本語の読めない漢字はまだまだたくさんあります。「日本語が上手ですね！」「へえ～刺身を食べるんですか？」日本にきて 20 年――今でも外国人扱いです！

この本では私たちの考える「日本人」を再認識させてくれます。日本の「世間」と「社会」はどのように違うのか、日本人特有の「空気を読む」とはどういう意味を持つのか、同調圧力とは何か、なぜ私たちは息苦しさを感じてしまうのか――この本を読むとその息苦しさから解放されて少し楽になったような気さえします。

日本は（特に学校）は同調圧力の強い社会だと思っています。私自身みんなとは違う考えを持ち、違うことを実践してきました。私の高校時代は冷たい目でみられたり非難されたり本当に辛かったです。でも様々な国の違った習慣や文化を経験して常識は一つではないことも発見できました。この本で生きにくい社会で私たちが幸せに生きるヒントをみつけられるかもしれません。みなさんもぜひ自分なりの答えを見つけてみて下さい！

本を読むことが、読書なのではありません。
自分の心のなかに失いたくない言葉の蓄え場所をつくりだすのが、
読書です。

長田（おさだ）　弘（詩人・児童文学作家／1939－2015）

〔図書の紹介〕

『明日話したくなる　個人情報のはなし』（蔦　大輔　他　著）

最近「個人情報」という言葉をよく耳にします。この本は、個人情報とは何か、なぜ個人情報が大事なのか、個人情報を軽率に扱うことがどういった危険を招くかなどを、実際の事件などを手がける現役弁護士が執筆し、イラストや図を使って分かりやすく解説しています。

『ねこ先生』（長尾　剛　著）

夏目漱石が「吾輩は猫である」を書くに至った生活、ヒント、またそれまでの背景を小説にしてあります。

ウツを発症した夏目金之助（漱石）の話し相手は、〝黒猫〟だった！？

『怪談』で知られる小泉八雲の後釜として、帝大（現在の東京大学）講師となった金之助は、学生たちとの確執に悩むとともに、自殺をほのめかす教え子の対応にも苦慮し、やがて心を病んでしまう。

一方、妻の鏡子は夫の病を治すべく、一念発起して行動を起こすのだが……。

文豪夏目漱石誕生の舞台裏を、史実を踏まえてドラマチックに描いた作品です。

『悪口ってなんだろう』（和泉　悠　著）

誰もが悪口を言ったり言われたりした経験があると思います。

- 悪口とは何か？
- 悪口と軽口や冗談は何が違うのだろうか？
- まっとうな批判とは何が違うのだろうか？
- どうして「タコ」とか「ザコ」とか他の生き物を指すことばで悪口を言うのだろうか？
- どうして悪口を言うのは楽しいのだろうか？
- 悪口はなくならないのだろうか？

こうした問いに答え、悪口を通じて人間の本質に迫る本です。

〔１月　月間図書貸出冊数〕

〈クラス別〉　　1月8日～1月31日

1－1	1－2	2－1	2－2	2－3	3－1	3－2	3－3	合　計
6冊	7冊	0冊	0冊	1冊	5冊	2冊	0冊	21冊

〈個人別〉

1位　4冊　濱本　詩音（1－1）

　　4冊　清水　美愛（3－1）